

令和4年度 第1回藤沢市部活動地域移行準備連絡会 会議録

1 開催日時

2022年11月21日（月） 15時～17時

2 開催場所

市役所本庁舎8階 会議室8-1・8-2

3 委員および出席者

【委員】

番号	委員氏名	所属団体・役職	グループ	出 欠
1	林 良雄	藤沢市スポーツ連盟会長	1	出 席
2	長田 祥男	藤沢市文化団体連合会長	3	出 席
3	太田 修二	藤沢市民交響楽団長	2	出 席
4	大井 秀幸	藤沢市学校・家庭・地域連携推進会議会長 監査	4	出 席
5	越 美紀	藤沢の子どもたちのためにつながる会 副代表	3	出 席
6	福家 大輔	藤沢の子どもたちのためにつながる会 総務	4	出 席
7	桜井 光	特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構 支援業務マネージャー	5	出 席
8	神原 勇人	藤沢市みらい創造財団 専務理事	3	出 席
9	亀山 憲生	藤沢市立六会中学校長	1	出 席
10	三浦 孝一	藤沢市立高浜中学校長	3	出 席
11	磯部 求	藤沢市立羽鳥中学校長	5	出 席
12	森谷 真佐美	藤沢市立秋葉台中学校 教頭	1	出 席
13	平井 早苗	藤沢市立羽鳥中学校 教頭	2	出 席
14	小林 悠	藤沢市立明治中学校 総括教諭	4	出 席

15	金子 剛	藤沢市立御所見中学校 教諭	5	出席
16	中村 亮平	藤沢市立村岡中学校 教諭	2	出席
17	谷村 朋	市民自治推進課 課長補佐	1	出席
18	田高 敏也	生涯学習総務課 主幹	2	出席
19	齊藤 雅子	文化芸術課 課長補佐	4	出席
20	今井 希	スポーツ推進課 主査	5	出席
21	峯 浩太郎	藤沢市教育委員会 部長	—	出席
22	近 尚昭	藤沢市教育委員会 参事	—	出席
23	伊藤 雅浩	藤沢市教育委員会 教育総務課 参事	—	欠席
24	宇野 匡	藤沢市教育委員会 学務保健課長	2	出席

【事務局】

1	坪谷 麻貴	藤沢市教育委員会 教育指導課長
2	三部 梨加子	藤沢市教育委員会 教育指導課 課長補佐
3	野口 博史	藤沢市教育委員会 教育指導課 指導主事
4	青木 ちひろ	藤沢市教育委員会 教育指導課 指導主事
5	平沼 美有	藤沢市教育委員会 教育指導課 主任

4 会議録

1. 会長、副会長挨拶
2. 部活動地域移行のこれまでの経緯と今後の見通しについて
3. 委員自己紹介
4. 協議
 - ・藤沢市の特性を活かした部活動地域移行とは

【当日の記録】

事務局：教育指導課の青木と申します。本日の司会をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱第4条により、協議の透明性、公正性を確保する意味でも、準備連絡会を公開で行いたいと思います。協議の内容につきましては、議事録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、次第に沿いまして、協議会を始めさせていただきます。

まず、会長及び副会長よりご挨拶をお願いします。

会 長：改めて皆様こんにちは。

ただいま準備連絡会の会長にご選任をいただきました教育部長の峯でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

後ほど事務局から説明がございますけれども、この連絡会藤沢市における地域移行の制度設計について皆様方とご議論いただく会議体でございます。

会議では皆様それぞれのお立場から積極的にご発言をいただきたいと存じます。指導者の問題、それから活動場所の確保の問題、大会のあり方や費用負担の問題など、まだわからないことだらけの中での進めていかなければならないという、そういうミッションとなります。

皆様と協議を重ねながら生徒のニーズに合った活動機会を提供できるよう制度を構築してまいりたいというふうに思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

事務局：続きまして、副会長の近教育部参事よりご挨拶をお願いします。

副会長：ただいま、副会長に任を仰せつかりました近でございます。皆様方のご協力をいただきながらこの円滑な会の運営に努めてまいりますので皆様どうぞよろしくお願いいたします。

峯会長：それでは、藤沢市部活動地域移行準備連絡会設置要綱第6条第1項に基づき、第1回藤沢市部活動地域移行準備連絡会を開きたいと考えますがいかがでしょうか。

各委員：（うなづく）

峯会長：ありがとうございます。

以後は、次第に従って連絡会を進行していきますが、次第の4部活動地域移行のこれまでの経緯と今後の見通しについて、事務局より説明を求めたいと思います。

事務局：それではこれまでの経緯と今後の見通しについてご説明申し上げます。

前方スクリーンのスライドをご覧くださいながらお聞きください。

既に経緯等につきましてご存知の委員もいらっしゃるかと存じますが、

確認の意味合いも含めまして、お話しさせていただきます。

中学校における部活動は、生徒の自主的・自発的な参加により行われているものであり、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として学習指導要領に位置付けられた活動です。

しかしながら、現在の部活動は、顧問である教員の献身的な勤務によって支えられ、長時間勤務や、経験のない競技を指導せざるを得ないことによる業務負担が問題視されています。

また、深刻な少子化の進展により、現在のような学校単位での部活動は、将来的に破綻することが想定されています。こうした問題を解決するため、国は令和2年9月「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図る」よう改革案を示しました。

本市においても、教員の負担軽減が実現でき、持続的な部活動制度を構築するために、中学校の部活動を地域の活動へと移行していく必要がございます。

部活動の地域移行に関するこれまでの経緯ですが、平成30年度に、国から「部活動の在り方に関するガイドライン」、令和2年度には「学校の働き方改革を踏まえた部活動の改革」について示され、令和3年度には、それらを踏まえ、全国各地の拠点校において地域移行にかかる実践研究が実施されました。

また、令和4年6月には、スポーツ庁の有識者会議運動部活動の地域移行に関する検討会議が「提言」を取りまとめ、来年度からの3年間で休日の部活動の地域移行に向けて検討すべき課題が示されたところです。

「提言」には、改革の方向性として、まず休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本としており、目標時期としては、来年度の開始から令和7年度末までと示しています。国が示す地域移行の在り方として、具体的な手法としては、学校単位によらない部活動の実施や、教員による兼職兼業制度を活用することなどが示されています。

あわせて、生徒の多様なニーズにあった活動機会の充実についても指摘されており、地域スポーツ団体等と学校との連携・協働の推進が必要であることも明示されており、令和4年度中に活動の実施主体や今後のスケジュールなどを具体的に検討していくために、協議会を設置することのほか、教員の兼職兼業の運用整理をすること、また令和5年度には、段階的に休日の地域移行を開始することや生徒の参加資格を緩和した大会を実施することが示されました。

令和6～7年度には環境整備の本格化、令和8年度には更に改革を進めるということが求められています。

なお、文化部活動の地域移行についても、文化庁から8月9日に同様の提言が示されたところです。

続きまして、今年度の本市の取り組みについてです。

6月に、藤沢市教育委員会及び学校関係者と、庁内関係課で部活動検討委員会を立ち上げ、多角的な視点での協議を実施し、横の連携を深めていくことを確認しました。7月には部活動地域移行についての教員向けアンケートを実施し、その結果を8月の部活動検討委員会で報告し、共有しました。

そして、10月～11月にかけて、本市立学校の中学校1・2年生およびその保護者に向けてアンケートを実施しました。結果については現在集計中です。次回の準備連絡会でアンケート項目とその結果をお示しする予定です。

それでは、本市における今後の予定と方向性についてお話しします。地域移行の課題解決を図るための協議の場として、国から協議会を設置することが示されていることから、本市では今年度については協議会に準じた「準備連絡会」を設置しました。来年度以降は「藤沢市部活動地域移行協議会」に移行し、休日の部活動地域移行に向けた諸課題について協議していく予定です。

課題として挙げられることは、たくさんございますが、その中でも特に部活動と「受け皿」となる運営主体をどのように結び付けていくのか、大きな課題でございます。藤沢市の規模や生徒数、部活動数を考えますと、その手法を一つに絞るというのは考えにくく、種目や地域の実情に応じた運営主体をどのように考えていくか、大きな課題として捉えております。スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、保護者や地域、大学との連携や、新たな形の管理運営など様々な手法を検討していく必要があります。

そして、休日の部活動を令和8年度以降完全移行とした場合、保護者の実費負担は避けられないことが提言で示されており、経済的に困窮する家庭の生徒への支援については、各自治体に委ねられておりますが、国からの補助があるのかどうか等の詳細は一切ないことから、今後、国の動向を注視し、検討していかねばならないことと捉えております。

また、教員が休日の指導も希望する場合の、兼職兼業制度の仕組みの構築、そして指導者の確保といったことについても、大変大きな検討課題と言えます。

令和5年度は休日の地域移行の実践検証として2～3ケース実施するとともに、成果や課題、手法の妥当性等について評価分析を行い、次年度につなげてまいります。

令和6年度については、令和5年度の検証結果を踏まえ、全校での取り組みを20ケース程度に増やして実施します。

令和7年度については、引き続き実証件数を拡大していき、休日に活動しうる全校の全部活動の半数に相当する90ケース程度に推し進めていき、令和8年度については、休日における全校の全部活動を地域へ完全移行させたいと考えております。

部活動改革の最終目標は、平日を含めて部活動を学校から切り離し、地域へ移行

することとされており、このことは、生徒が中学校を卒業したあとも、生涯にわたって地域団体での活動を楽しみ、地域の持続可能で多様なスポーツ・文化環境を構築することにつながります。

スポーツについては、藤沢市スポーツ都市宣言にあるとおり、生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康で笑顔あふれる藤沢を実現できるよう、教育委員会にとどまらず、「藤沢市」としてどのような手法が最善なのかを引き続き、検討していく必要がございます。

最後に1点付け加えます。

報道では経済産業省から9月28日に、地域×スポーツクラブ産業研究会最終提言として「未来のブカツ」ビジョン(概要版)が公表されておりますが、現在、文部科学省、スポーツ庁、文化庁以外の関係省庁から正式に下りてきておりません。今後の連携の中で情報があれば、準備連絡会の中でお伝えしたいと考えております。長くなりましたが、以上でございます。

峯会長：ありがとうございました。ただいま事務局から報告がありましたが、何かご質問などございますか。ないようでしたら、次に進みたいと思います。

峯会長：それでは、名簿の順に、委員の皆様から自己紹介をお願いいたします。所属とお名前、そしてそれぞれのお立場から、本市の部活動地域移行に向けて一言お言葉をお願いします。なお、時間の都合上、お一人につき2分程度をお願いします。本日は教育総務課参事 伊藤委員は欠席でございますのでご承知おきください。それでは、藤沢市スポーツ連盟の林委員からお願いいたします。

委員：スポーツ連盟会長の林と申します。まず、スポーツ連盟とは藤沢市スポーツ関係団体6団体で、それを一つにまとめて情報の共有化やどんな形で力を合わせて藤沢のスポーツを進めていくことができるだろうか、そんなことを考えながら取り組みをしている団体で、今年の4月1日に発足した団体です。今もありましたが、スポーツ都市宣言がされまして、その実践にあたってどんな形でそれを具現化できるかというようなことを取り組みの中心に置いて進めている団体でございます。

私はその中で体育協会の会長ということで、スポーツ連盟の会長をつとめております。今回の部活動の地域移行について、大変難しい問題だというふうに思っています。まず移行にあたって子どもたちが現状の部活動を下回ることがないよう、つまりそれを最低限保障できるような形で移行されていかなければならないと考えております。部活動は課外活動ということでございますので、その課外活動で行っている内容をできるだけ踏襲した形での移行ができたらいかなというふうに思っております。そうするためにはたくさんの課題があると思います。その課

題を一つひとつクリアさせて藤沢の移行がどんな形になるのか、そういうことを考えていけたらいいな、と思いますしこの中で先ほどの会長から質問がありますかというようなことでも質問がなかなかしにくい状況がありますので、どんな形で進めていくのかというその基本的な考え方や切り口というものを事務局の方から示されたら話が進めやすいと思っております。子どもたちのためにできるだけいい方法をとっております。よろしくお願いいたします。

委員：長田祥男でございます。私は藤沢市文化団体連合会会長という立場で、文化の立場で参加させていただいております。私自身は華道家でございまして、先週は沖縄に行き、国民文化祭に参加をするなど、いろんな活動をしております。

私が文化活動というよりも文化団体連合会の代表として話をさせていただきますと、中学においての文化部というのがどうしても専門的なものを持ってない分野、例えば伝統文化・伝統芸能的な分野になりますと、昔やったことがあるからちょっとやってみようという指導者にどうしてもなってしまう。私達プロからすると、それではちょっと指導される子どもたちがかわいそうだということになってしまう。

やはりプロの立場で初心者の人を指導すると、レベルが違ってきてしまいますので、できればそのプロの人たちが介入できるようなシステムで、より良いもの、よりレベルの高いものを子どもたちに与えていけたらという形で、この部活動地域移行を考えていただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

委員：私は藤沢市民交響楽団の団長ということでこの会に参加させていただいております。藤沢市民交響楽団は、現在 63 年の歴史がございます。元々は、県立湘南高校の弦楽部・吹奏楽部の OB がもとになってできた団体ですが、今はそういったことはなくていろんな方たちが所属している団体でございます。

私達はすでに、中学生や高校生の皆様と一緒にコンサートをやったりしております。

その中でやはり、私達の団体では、一般社会人の団体と、学校との見えない壁のようなものを感じております。こうした部活指導者の地域移行は非常に興味がある課題でございます。私達の団体には、昔は、たくさんの中学生や高校生が所属していたのですが今は高校生も中学生も 1 人もいません。

また、ジュニアオーケストラも昔は 60~70 名おったのですが現在は 10 名ぐらいしかいないという非常に瀕死の状態になっております。それも学校教育などいろんなところに問題があるのかなと感じております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます

委員：大井秀幸と申します。ちょっと長いのですが、藤沢市学校・家庭・地域連携推進

会議会長会、3者連携と言われておりますけれども地区センター、公民館に一つございまして、地域の小中学校の地域と家庭、学校とを結ぶという団体の会長会からやってまいりました。前年度から小・中学校でコミュニティスクール、学校運営協議会というのが始まっております。三者連携の会長もその中に参加しているということで、何回か行われておりますが、学校からも部活動のことはテーマになっております。そういうことで今回から参加させていただくということになりました。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員：藤沢の子どもたちのためにつながる会副代表をしております越と申します。藤沢の子どもたちのためにつながる会は、藤沢市内小学校中学校特別支援学校合わせて55校の保護者と教職員で子どもの健やかな成長を見守るために、教職員と保護者を繋ぐお手伝いをしております。そこでいろいろな情報を共有させていただく会の副代表しております。

部活動は、学校のクラスの中では学べない部活動ならではの教育だと感じております。部活動は課外とはいえ、教育の一環ということで、子どもはもちろんです。教職員の皆様もどうかご満足いただけるようなスタイルに移行できたらというふうに思っております。まだ右も左もわかりませんが、こちらの皆様と一緒に協議をしていいスタイルに移行できたらなというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

委員：こんにちは。同じく藤沢の子どもたちのためにつながる会総務を務めております福家と申します。藤沢の子どもたちのためにつながる会については、越の方から説明されましたので割愛させていただきます。今回こちらの会議に関しては、保護者の立場から意見を述べさせていただくということになるかと思っております。自分自身が部活の中で経験したことがその後大人になってからもすごく自分の心の中に残って成長にも繋がったというすごく実感しております。そういう自分が体験したようなことを、これからの子どもたちにも同じように受けていければなと思うので、何かいい形で移行をさせていただければなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員：こんにちは。特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構の櫻井光と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私どもの団体は、市民活動NPOを応援してまちを元気にしようというビジョンを掲げて活動しております。

具体的には藤沢の市民活動推進センター、市民活動プラザむつあいという施設の運営をやっておりまして市民活動団体400団体ほど今登録があり、そういった皆様の活動のサポートの業務をしております。

また、高校生や中学生のボランティアや、インターンのコーディネーターのようなことも業務でやっておりますので、この世代の皆様とか多種多様な目的に市民

活動団体が受け皿になれるように少しお手伝いができればと思っているのと、私自身も高校まで部活動をやってきましたので教員の皆様とそういったことで関係性ができてすごくいい思い出がたくさんあります。ですので、部活動を学校から外に出す部分と、今までの部分を上手にマッチングできるように少しでもお力になればなと思っています。

よろしく願いいたします。

委員：お世話になります。公益財団法人みらい創造財団の専務理事をしております神原と申します。どうぞよろしく願いいたします。私達みらい創造財団は、ご存知のとおり青少年の健全育成事業、放課後の児童の居場所事業、それから芸術文化振興、スポーツ推進事業を市の出資法人として担っている団体でございます。今回準備連絡会の方にメンバーとして入らせていただきまして、行政と各市民団体活動団体の皆様の間を繋ぐ役目もあるというふうに思っているところでございます。部活動の地域移行につきまして教員の働き方改革、それから少子化に伴う各地域の文化やスポーツの担い手後継者、それから競技スポーツの裾野を広げるという意味で、大変厳しい状況がこの先も出てくる中で、関係する全ての人にメリットが享受できるようなシステムになればいいなというふうに思います。

中でもやはり主体である中学生生徒の皆様が、こういう形で移行できたというのが良かったなと実感できるような、例えば既存のクラブ活動以外にも、様々な新たな活動ができて、多くの生徒の方々が、地域における部活動というものを将来的に体験できるということが理想ではないかなというふうに思っております。それには、まずスタートをスモールスタートというふうになるのかと思いますけれども、最終的な将来ビジョンをしっかり持ちながら、そこに対して課題解決をしていくのが重要かなと思っています。ぜひ我々も一緒に考えさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員：こんにちは。藤沢市立六会中学校校長の亀山憲生と申します。よろしく願いいたします。

私は生徒も教員も所属している、いわゆる現場の代表としてはこの会に参加させていただいております。まずは子どもたちだけでなく、私自身もそうですが、ここ40年50年部活動を通じて得たものとか学ぶものとかは、言葉では言い尽くせないぐらいものすごく大きなことがあるのではないかなという風に考えております。またその一方で、それが「献身的」という言葉で置き換えられていますが、教員の対価を求めない、対価がなかなかないというところが、今現状問題ではないかと考えております。

私も子どもたちも教員も地域の方も、あるいは日本全国の生活している人にとってプラスになるような方向性が出れば一番いいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

委員：こんにちは。藤沢市立高浜中学校の三浦と申します。お願いします。

高浜中学校は中規模の学校ですが、部活動は大変盛んに行われております。

皆様ご存知のように、部活動改革は部活動ガイドラインを策定して部活動指導員導入が始まりましたところ、コロナ禍に入って様々な制限があり、そしてようやくそこからまた活動が再開される場所に、この地域活動移行ということで、大きな転換期を迎えていると感じております。現場にいて生徒や保護者の部活動はどうなっていくのだろうという不安を正直感じます。

皆様方からも出ておりますけども、ぜひ子どもたちにとってよりよい形になること、それが教員にとっても良い形になるように、お知恵を借りながら進めていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

委員：こんにちは。藤沢市立羽鳥中学校校長の磯部求でございます。よろしく申し上げます。

亀山校長、三浦校長それぞれ校長としてのお話ということでしたが、私は中学校体育連盟の会長も務めている関係で、今後の大会運営等について、様々な課題が今考えられております。来年度からは地域スポーツクラブも中体連等の大会に参加してくるというようなこともあります。

そういった中でも、まだまだ県から確固たる方針が示されていない中、本当に手探りで行っていかなければいけないなと思っております。ただ、せっかく教員の負担を軽減するという話が出ている中で、逆に教員の負担が増えてしまわないような形にしていかなければいけないなというふうに思っております。校長としての立場と大会運営していく中で立場ということ、今後いろいろご意見させていただいて、一緒に考えさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員：皆様こんにちは。藤沢市立秋葉台中学校教頭の森谷真佐美と申します。

どうぞよろしく申し上げます。

初めにいつも地域の皆様、それから関係所管の皆様、行政の皆様に本当に支えていただきながら、毎日学校を運営できること本当にありがたく思っております。

ありがとうございます。

先ほど校長先生方 3 名の校長先生方のお話を聞きまして、本校も校長とともに一緒に業務に当たっているところですが、やはり保護者の方や、生徒、それから教職員も含めて、この部活動の地域移行はこれからどうなっていくのだろうかというところに非常に興味とともに不安を感じているなという声を多数いただいております。

大会後の様子などを見ておりますと、勝敗もさることながら、やはり頑張った成果が出てきたときの子どもたちの笑顔が本当に眩しく、いつも嬉しく思っております。

ます。

その笑顔を今後も守っていけるような、そのような地域移行になるといいなと思っておりますので、いろいろ皆様のお知恵をいただきながら学校の方でも、できることを模索しながら頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

委員：こんにちは。藤沢市立羽鳥中学校の教頭の平井早苗と申します。

どうかよろしくお願いたします。

ご縁がありまして、この会議には最初から出させていただいているのですが、学校で部活動の様子を見ると、これが地域移行になって部活動が放課後どういうふうになっていくか、また今森谷教頭先生がおっしゃっていましたが、たまたまこの間大会が終わった後生徒が「先生、私達頑張りました」という風にニコニコしながら言ってくれまして、この笑顔が地域移行になるとどうなるのか、など自分の中でも考えながら日頃の様子を見ているような状況があります。

いろいろと勉強しながらやらせていただければと思いますので、どうかよろしくお願いたします。

委員：こんにちは。明治中学校から参りました小林と申します。磯部委員と同じように藤沢市中学校体育連盟というところから参りました。やはり大会運営について、来年度以降どうしていこうかというところを模索中ではあるのですが、藤沢市を見ますと、運動部については12の専門競技があります。一括してこういう形で大会開催すると言っても競技によってかなり差がありまして、そもそもまちにクラブがあるもの、そうでないもの、まず部活動がクラブ化して、それが大会に参加した場合はスムーズにいく場合とそうじゃない場合、または新たな形でクラブを作っていくというような考え方もあるので、非常に難しいところではあるのですが、今、日本中体連から県、そして各市町村に下りてきて、ということで中体連の中でも動きがあります。今までの考え方にとらわれず、新しい形を生み出していければというふうに思っております。よろしくお願いたします。

委員：皆様こんにちは。御所見中学校から来ている金子と申します。部活動はソフトテニス部を持っています。今回はこのような会議で、本当にいろんな方が来てくださり私は非常に嬉しくなっております。

新しいものを生み出すときは、かなりエネルギーを使うし大変だと思います。

大変苦労される場面が出てくるかと思いますが、皆様の知恵で、新たな藤沢モデルの活動を作っていきたいなと思っておりますし、手助けしたいという気持ちであります。

どうぞよろしくお願いたします。

委員：皆様こんにちは。藤沢市立村岡中学校で教員代表として出ております中村亮平と申します。労働組合教職員組合の観点から発言をさせていただく立場であります

ので、そういったことを踏まえながらいろいろと発言できればなと思っており
ます。

この部活動改革というのは、教員の働き方改革に直結すると感じています。部活
動指導をやりたくない教員もいるということで、そういう方々の働き方改革にな
るのではないかなと思います。また、そのことが子どもたちにも生きてくるので
はないかと感じています。

16日に部活動ガイドラインの改定案というのが国から出て、残念な思いでいま
す。「人材不足があった場合は当面の間学校と併存していく」というようなことが載
っていました。藤沢市はどうなるのかということに期待して、こちらに参加をし
ているのですが、藤沢市は見通しを持って令和8年までに地域移行を目指してい
くということは変わらないということを確認できましたので、一つ安心をしており
ます。それから、最近ニュースでよく見るのですが、2年ほど前から私学や中
高一貫校等に労働基準監督署が入って、休日に部活動で6～7時間引率をした教
員は平日に休み取らなくてはいけないというような是正勧告がなされているよう
です。部活動のような課外活動でも、労働基準監督署としては勤務として見てい
るということです。我々公立学校はそういうところに該当しないのですが、その
ような扱いになってきているということを感じております。公立学校の部活動も、
労働者のことを考えながら子どもたちも当然ですが、我々教職員が笑顔でないと
毎日の子どもたちの教育によくないですし、我々教職員が疲れてしまつては仕様
がないので、そういった観点からいろいろと意見させていただければと思ってい
ます。

よろしく申し上げます。

委員：市民自治推進課の谷村と申します。私の業務としては2点関係します。1点目が
市内13地区ありますけれども、その中の市民センター、いわゆる地域活動の総
務課という位置づけになります。直接所管しているわけではないですが、ここ
で得た話や各地域で検討するべき課題等を、私を通じて地域へ確認していきたい
と思います。もう一点としては、今昨年度、オリンピックを契機にボランティアの
ポータルサイトを立ち上げました。スポーツに限らず、いろんな分野での市民力
の強さを実感しておりますし、そのようなボランティア事業をこれから盛り上げ
ていく業務を所管しています。直接この部活動がすぐボランティアだけで成り立
つとはもちろん思っていないのですが、先日のこの報道のガイドラインの中で、
人材バンク的なものを作ることも示されておりましたので、そこは何かご縁があ
るのかなというところがあります。

部活動は一生を左右するものであり、周囲の興味と不安も大きく、たくさんの課
題があるため大変だと思いますが、一緒になっていい形を作ればと思いますの
で、よろしく申し上げます。

委員：生涯学習総務課の田高敏也と申します。よろしくお願いいたします。私どもの方では生涯学習総務課というところで生涯学習全般の取りまとめということもありますが、教育委員会の社会教育に関する諮問機関として、社会教育委員会議の事務局を担わせていただいております。今回の委員の中にも何名か社会教育委員の方がいらっしゃる状況でございます。

今後の移行に当たっての協議は社会教育委員会議の中でも話をしていく必要があるかなと感じております。

具体的な業務としましては、先ほど市民センターのお話がありましたが、併設館の13の公民館、そして2分館の運営管理や取りまとめ等も行わせていただいております。更に、先ほど人材バンクの話がございましたとおり、市民の皆様の中で生涯学習に関するスキルや知識をお持ちの方について、ボランティアとして市民の方々に教えていただける方の登録も実施しており、現在300名近くの方がご登録をいただいております。そういったところも、今後活用していけるのかなと感じております。

また公民館等の事業についてもそうですけれども、お子さんは小学生までの方は事業に参加し、地域との繋がりを持っていただいておりますが、どうしてもその後引退されるまで、なかなか公民館等の市の社会教育事業や生涯学習事業に参加していただく機会が少なくなっている傾向にあると感じております。

生涯学習は単に「学習」ということだけではなくて、やはり100年時代を迎える中で、市民の皆様がいかに充実した人生を、生涯学習を通して地域の繋がりを作りながら過ごしていくことと考えております。

そういった意味では、この地域移行が、地域との繋がるきっかけになっていけばいいかなとも思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

委員：齊藤雅子と申します。文化芸術課の課長補佐として出席させていただいております。文化芸術課の業務としては、施設的には市民会館、辻堂にアートギャラリースペース、あとは市民ギャラリー、湘南台文化センターシアターを、管轄している部署となります。今回の部活動の地域移行の話になりますと、主に文化系の話のところに関わる業務になると考えております。

広い範囲についていろいろ皆様と一緒に考えて、よりよい中学校の部活動を考えていく機会に参加させていただく貴重な機会となりますので、皆様と一緒にやっていきたいと思っております。

子どもが多かった世代の私達にとっては、部活動の選択肢がないというのは結構衝撃な話でした。皆様と一緒により良い部活動を考えていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員：こんにちは。藤沢市生涯学習部スポーツ推進課の今井希と申します。よろしくお願いいたします。私の課の業務として、この連絡会の中で主にお手伝いできるところ

というと、中学校部活動に入部する前の、小学生年代のスポーツ少年団本部の事務局等を本課で担っていること、あとは将来的なところになるかと思いますが、地域の活動場所など市内の公共のスポーツ施設の所管課でもありますので、そういったところからいろいろお手伝いできればいいかなと思っております。
よろしく願いいたします。

委員：こんにちは。藤沢市教委教育委員会学務保健課の宇野でございます。よろしくお願いいたします。私は学務保健課の立場からいたしまして、先ほど事務局の方からも説明ありましたが、教員の兼職兼業について、関わっていくことと思えます。これまでも、国また県からの通知においても、地域部活動に従事することを希望する教員については、引き続き休日に指導を行うことができるようにするためには、市町村教育委員会による兼職兼業の許可が必要になってくるということでございます。現行の制度もございますが、今後様々整理をしていく必要があると考えているところなので、ここにお集まりの皆様にお知恵をお借りしながら、教員を含む地域移行について考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

会長：皆様どうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
なお、教育委員会教育総務課 伊藤委員におかれましては、本日欠席ということでございますので、ご承知おきいただきたいと思います。
ありがとうございました。

会長：続いて次第の6、「藤沢市の特性を活かした部活動地域移行とは」の協議へと入ります。

先ほどの事務局からの説明を踏まえ、それぞれのお立場から、藤沢市の特性を活かした部活動の地域移行について考えていただきたいと思えます。基本的には正解を求める協議ではありませんので、「藤沢市でこんなことができるのではないか」という視点で、実現の可能性の高い低いにとらわれない、自由な話し合いをお願いします。

時間は、25分お取りします。グループで協議を進めてください。協議は、3ページの座席表にお示した数字の番号に分かれてをお願いします。

なお、司会進行役はグループ内で誕生日の一番早い方が、後ほど行う発表はグループ内で誕生日の一番遅い方が、それぞれをお願いします。
それでは、協議をお願いします。

～25分の協議～

会長：それではグループ1から協議内容について、どんなお話が出たかということをお話くださ

い。よろしくお願いいたします。

委員 :グループ1での話し合いの内容です。課題だけ話をしていても進まないということで、とにかく移行することによってどのような形のいいものができるのかということを見ながら、子どもたちの活動を確保するために場所・指導者・費用の確保する方法、こういうことを考えていただけないかというような話が出ました。以上です。

会長 :ありがとうございました。続きましてグループ2からお願いいたします。

委員 :中学校の中身や部活動というのはどういう問題かというのをグループ内でお伺いして、これからどうしたらいいのかということまで話が行けませんでした。例えば柔道部は学校にはないので、中体連主催の大会には学校単位で出場しなくてはならないという、そのあたりをどういうふうに調整していったらいいかということが出ました。来年度からクラブチームが参加ということになると思うので、これから話し合いできればと思います。

会長 :ありがとうございました。では続きましてグループ3からお願いいたします。

委員 :グループ3では地域の特性を生かしたという観点から藤沢市は市民力や地域力が高いというところで、本日こうして出席されている方々もそうですが、とても素晴らしい力を持っていらっしゃる方が多いので、そういった方々がやりがいを持って部活動に取り組めるスタイルを考えていけたらいいのではないかなという話が出ました。その中には大学と連携するのも一つの手ではないか、という話も出ました。例えば、科学部であれば、なかなか地域に科学に詳しい方がいないという場合は、大学生の手を借りて教えていただくこともできるのではないかという話が出ました。

あと長田先生から、例えば華道や茶道、書道美術系の市展の案内を文化団体連合会の方から公立の中学校の方に出しているそうなのですが、グループ内に中学校長である三浦委員がいらっしゃるのですが、実際中学校の方にはそういったものは来ていないそうです。こういった案内等をうまく周知し、もっと子どもたちに市展の参加を促すと、学校の大会だけではなく、市展の中にはもっと質の高い大会があるので、ぜひとも子どもたちに参加してもらえたらという話が出ました。

部活動では、技術面だけでなく精神的な面でも、先生方に本当に指導していただいております。それが例えば技術を学びたい場合、今は特に昔と違って部活をやっていたからと言って内申で何か関係あるという時代ではないので、技術面を求める家庭は外のクラブチームに入っていることもあります。ただ学校の部活に入っているご家庭は、一致団結するチーム力、精神面を指導していただけることにすごく魅力を感じています。そういったところから、地域に指導者が移行するとなったときに、指導者の質を揃える必要があるのではないかという話ができました。以上です。ありがとうございます。

会長 :ありがとうございました。続きましてグループ4からお願いいたします。

委員 :グループ4は、まず今回のこの地域移行の話聞いてどういうふうに感じましたかということから始まりました。様々な立場の方が揃っていらっしゃる中で、熱意を持って部活動に取り組んでいらした先生からは地域移行になったときに関わるができなくなるころ

は嫌だと感じたという意見をいただきました。

地域の方から見ると、本当にこんなことができると考えているのだろうかという疑問や、熱意だけではなかなかできないことなのであれば、対価を払ってやっていくべきだろうという意見が出てきました。他のグループからも出ていますが、人材を育てることが非常に大事でしょうし、熱意を持ってやっている人がいるのであれば、そこをサポートしていく形というのを、市行政から国に働きかけるなりして、予算などが見えないところではあります。この会議の中で良い方向に持っていけるように国等へ働きかけていくってということが必要なのではないかとこのころがありました。部活動が完全に学校から離れるところを、保護者の方は不安に思っているところがあるのではないかとこのころも意見もありました。学校に日頃から関わっていらっしゃる保護者の方たちはわかるかもしれないのですが、ごく普通の、私も含めてなんですけども、この仕事に関わってなければおそらく地域移行の話は、新聞の報道程度でしかわかってないように思います。ですので、どういう状況なのかというのを、藤沢市の中でもこの会議でもそうですし、保護者の方の中とかでも共有していく必要があるのではという議論になりました。以上です。

会 長：ありがとうございました。それでは最後にグループ5からお願いいたします。

委 員：藤沢市は人口が増えているのですが、子どもの部活動の選択肢が少ないと感じます。それから、少年団の活動が活発で13地区で活動がありますが、例えば野球・バスケ・バドミントンにおいては、それが中学に行ったら部活動としてはなくなってしまいうため、続けるにはどうしたらいいか、また指導者の高齢化とか若い保護者の方が指導に関わってくださっても、子どもと同じタイミングで辞めてしまうという課題、指導者に資質を求める問題、ボランティア性の高い指導者にどこまで求めるのか、また若い世代が指導に関わるメリット、例えば報酬が出るかなど、20代30代は忙しい中どうやって関わるメリットを出すか、ボランティアだけではなかなか回らない可能性があるが、その負担を別へスライドするような形はよくない、費用の面については、生徒さんが個人で負担している競技もある等、様々な意見や課題が出ました。

打開するアイデアとして、若い世代の人口が増えているので、そういった方々が活躍しやすい場作りや、平日の新しいモデルの活動を試してみたりするのはどうだとか、その土日の部分に今の若い世代や企業、地域などに関わっていただくなど、地域団体などのいろんな市内のリソースを使っていくこと、それから部活動で仲間や社会性、例えば切符の買い方を部活動で学んだ、みたいな話もありましたので、そういった人と人との繋がり続けるような形で既存のモデルと新しいモデルをやっていながら、ブラッシュアップできればいいという話がありました。

会 長：ありがとうございます。ただいま5つのグループから協議していただいたことを、発表していただきました。事務局の方でキーワードと思われることを書かせていただきましたが、各グループからの発表があったことについて、何かご質問やご意見があれば、もう少し協議を掘り下げていきたいなというふうに思いますが、気になったことやご意見等がござい

ませんでしょうか。

委員：はい。補足ですが、来年から中体連の大会にクラブチームも参加できるようになる話がありますが、まだ整理が進んでない種目競技もあると思います。

今学校の中に、「部活動外顧問」が存在しています。例えば柔道やフィギュアスケート、水泳など学校にない部活動の引率をする役割を担う顧問です。引率のほかには大会申し込みをするという職員が必ず学校に1人います。けれども、そこは来年からなくせるのではないかということ、現場からの声としてあげたいと思います。

来年制度が整えば、各クラブチームから参加できるようになるので、引率を教員がやる必要はなくなりますし、大会の申し込みについてもチームから行うことができます。やはり何でもかんでも学校が負担するということから少しずつ、必要ないものは声を大にして言っていけばいいのではと思っております。

会長：はい。ありがとうございます。その他何か皆様の方からご意見やご質問、それから追加の補足説明ですとかそういったものがあればぜひお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

委員：グループ4の補足として、保護者の地域移行に関する認知度ですが、まだまだ低いのかなという感じがします。昨日たまたま小学校の先生と会って、話をしましたが、部活動が地域移行するという認知が低いという印象を受けました。もちろん新聞等で報道されておりますが、県によってはチラシやリーフレットを作成・配布しているようですので、部活動地域移行は始まるということをどんどん伝えていくことが大事だと感じます。以上です。

会長：はい。ご意見ありがとうございます。この件について、事務局の方から何かコメントございますか。

事務局：委員がおっしゃったとおり、発信は非常に大事だと感じております。今年度は、先ほど保護者の方にアンケートをしたということを申し上げたのですが、このアンケートの実施を兼ねて、部活動の地域移行についての頭出しをさせていただきました。ただ、踏み込んだ説明というのはまだできないと感じております。その点は、令和4年度、来年度の大きな課題だと捉えておりますので、チラシ作成・配布や、場合によっては保護者の市民の皆様にもオンライン併用等にて、ただ発信するだけではなく、意見をいただきながら進めていけるような形で説明会やシンポジウムのものを企画実施することも検討しています。また、アンケートを今回中学1・2年生とその保護者の方にとらせていただいたのですが、その結果については、また次回以降お示しいたしますが、当然今の小学校3年生が令和8年度の中学校1年生というところを考えると、来年度以降は定期的に小学生やその保護者にアンケートをとる形で地域移行というものを発信していく、またニーズを吸い上げて、どういった形で反映できるのかというところを検討することが必要だと思っております。

今の説明の補足として、市民の説明会やシンポジウム開催という話がありましたけども、まだ全く現実的な話ではないのですが、我々は日々そのようなことを実現させていきたいと

いう話をしております。今協議いただいた中でも課題がたくさんありますが、こんなことができるというお話やいろいろアイデア等をいただけたと思います。小学生や保護者対象のアンケートも今後考えてまいります。来年度の協議会等でまたいろいろご意見をいただきながら、今までやったことのないような取り組みもできるようにと考えております。現時点ではきちんとした形で保護者の皆様にご説明がどこまでできるのかについては、課題ではありますが、来年度についてまず学校を通して、どこの学校でも生徒や保護者に対して一律の説明等を含めてしていく必要があると考えております。

会 長：はい。今市民への案内ということで事務局から説明がありました。

委 員：周知のお話になったので一言言わせていただきたいと思います。

今当然ながら主体となる子どもたちやその保護者に地域移行というのを理解していただくのが大変大切なことだということは理解しますが、その受け皿となる地域の方々、文化活動やスポーツ活動を日ごろ地域で活動されている団体の方たちに早期に情報及び考え方を示していただく必要があると思います。

10月10日に、スポーツ連盟でシンポジウムが開かれて、藤沢市のスポーツを考えるとというパネルディスカッションの中で、中学校の部活動の地域移行という課題があるけれども、なかなか情報が来なくて種目協会もいろいろ悩んでいるというようなお話もありました。

保護者や生徒の皆様と同じようなスケジュール感で、受け皿となる地域の方にも、情報や考え方をお示しいただかないと、なかなか両輪で回っていかないかなと思われましたのでよろしく願います。

会 長：ご意見ありがとうございます。委員の方からいただいたご意見も本当にごもつともだと思いますし、然るべきときに、事務局の方から周知をさせていただきたいということで、よろしく願います。

委 員：はい。会長がまとめていただいた後で恐縮ですが、意見として、私は非常に慎重論でして、新聞等の活字資料で見ると、先生の働き方改革とか、それから地域移行ということだけが中心に出てきていて、生徒さんたちがどうなるのかっていうところが全然見えてこないです。ですから、そういうところも含めて、子どもたちがどうなっていくかがわかった形で、周知をしていただけるといいかなと思います。この会議をもつともつと早く進め、藤沢市がどういう形で進めていこうとしているのか話し合いの中でまとまってきた形を説明できると一番いいと思っております。先生の働き方改革のために移行するような感じで受けられても困りますので、そこは慎重にやらないと、せっかくの地域移行が台無しになってしまうと思いますので、よろしく願います。

会 長：はい。ご意見ありがとうございます。誤解のないように段階を踏んで、市民の皆様にご周知をしていきたいというふうに思っていますので、よろしく願いたいと思います。

その他のご意見がないようでしたら、協議はここまでということにさせていただきます。事務局の方から何か総括的なポイントとして皆様のお出ししておくべきことはございますか。

事務局：今日は活発な協議をいただきましてありがとうございました。ご質問やご意見をここでたく

さん出していただいて、今日までの経緯説明の中にスポーツ庁と文化庁から出ている提言に、様々地域の課題っていうのが示されており、それを照らし合わせていくと藤沢でもっと良い形でできるのではないか、この形だと難しいのではないかとかそういった具体のところをこの準備連絡会と、来年度以降の協議会で話をさせていただくということを今日皆様にご理解いただければと思っております。

皆様の知見やご意見、忌憚のない批判も含めてお出しいただきまして、一つひとつ解決できればと思っておりますので、どうぞこれからもよろしくお願ひします。

会 長：はい、ありがとうございました。それではここで締めたいと思います。本日は、熱心なご協議ありがとうございました。今後も忌憚のないご意見を寄せていただきますようお願いを申し上げます。

それでは進行の方を事務局にお返ししたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

事務局：委員の皆様、長時間にわたり、ありがとうございました。第2回の藤沢市部活動地域移行準備連絡会でございますが、12月22日木曜日3時から市役所本庁舎8-1.8-2会議室を予定しております。

内容は「国・県の動向について」、「藤沢市立中学校部活動に関するアンケート結果について」、「令和5年度休日の部活動地域移行のモデル実施について」を予定しております。年末の大変お忙しい時期かと存じますが、何卒ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

それでは第1回藤沢市部活動地域移行準備連絡会を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。